

看護技術研修 (基礎Ⅰ・基礎Ⅱ)

～信頼される安全な看護を目指す～

新卒者68名が看護技術研修(基礎Ⅰ・基礎Ⅱ)を受講しました。研修では、これまでの基礎教育の学びを振り返り、看護技術動画を視聴後に演習を行いました。研修者はそれぞれの看護技術の難しさを感じつつも、安全を第一とした確実な看護ケアの実施と安楽への配慮の必要性を学んでいました。また研修を通して自己の課題とその方策を見出していました。今回はCOVID-19感染拡大の予防の観点から、三密を避けるような環境と医療材料の使用制限がある中で研修を実施しました。演習中は手指消毒だけではなく使用した物品の消毒を徹底するなど、研修者1人1人が感染対策を意識しながら演習を受けていました。

4月

インスリン療法 皮下注射

針を支える指の固定に難しさを感じていました。

経口与薬

7Rの確認の大切さを学んでいました。患者へのわかりやすい声掛けを意識していました。

末梢静脈点滴

キョウアイバルビックに沿って、指差し声出し確認を行いました。

移動・移乗・移送

(車椅子・ストレッチャー)

実際に患者役を体験して安全な移送の方法について検討していました。



5月

輸液・シリンジポンプ

閉塞アラームの対応を指導者と共に確認しました。正しいポンプの取り扱いや操作が、患者の安全につながることを学んでいました。

口鼻腔吸引

模擬痰の入った吸引モデルを使用しました。吸引圧や一回の吸引時間について学びました。

静脈採血

お互いの腕に穿刺しました。手技に集中してしまい、声掛けが不足してしまう傾向を振り返っていました。



6月

筋肉注射

針を刺す角度や深さについて学びました。アフリキーンショックを疑ったときのアドレナリンの筋肉注射では、緊急時にどのように対応したらよいか研修者同士で検討していました。

浣腸

羞恥心を伴う処置であり、声掛けや羞恥心に配慮したケアの大切さを感じていました。

経尿道的膀胱留置カテーテル

清潔と不潔をしっかりと区別し、清潔動作を確実に習得する必要性を実感していました。

